

[普及事項]

新技術名：ネオニコチノイド系殺虫剤のキンモンホソガに対する防除効果（平成18年）

研究場所名 果樹試験場 リンゴ部・特産果樹部
担当者 舟山 健・大隅専一

[要約]

リンゴに農薬登録のあるネオニコチノイド系殺虫剤6薬剤のうち、チアクロプリド顆粒水和剤とアセタミプリド水溶剤はキンモンホソガに対する防除効果が高い。

[ねらい]

ネオニコチノイド系殺虫剤は広範囲の害虫に有効であり、天敵類に及ぼす影響も比較的少ないことから、リンゴ園で広く使用されている。本系統の薬剤の大半は、主要害虫のモモシクイガ、キンモンホソガおよびカメムシ類に農薬登録を有する。これまで、モモシクイガとカメムシ類に対する防除効果は、本系統の薬剤間で異なることが知られているが、キンモンホソガに対しては明確にされていない。そこで、本系統の薬剤のキンモンホソガに対する防除効果の差を明らかにし、効率的・効果的な薬剤防除を行う。

[技術の内容・特徴]

- 1) キンモンホソガの多発生条件で、第1世代成虫の発生盛期（6月中旬）にネオニコチノイド系殺虫剤6薬剤〔チアクロプリド30%顆粒水和剤（商品名：バリアード）2,000倍、アセタミプリド20%水溶剤（商品名：モスピラン）2,000倍、クロチアニジン16%水溶剤（商品名：ダントツ）2,000倍、イミダクロプリド50%顆粒水和剤（商品名：アドマイヤー）5,000倍、チアメトキサム10%顆粒水溶剤（商品名：アクタラ）2,000倍、ジノテフラン20%顆粒水溶剤（スタークル）2,000倍〕をそれぞれリンゴ樹に散布した〔展着剤（商品名：アイヤー）を10,000倍で加用〕。なお、各薬液の濃度は他害虫との同時防除を考え、適用の最も高い値とした。
- 2) ネオニコチノイド系殺虫剤6剤の防除効果は、本種の第2世代期（7月上旬）では有意な差が認められなかったが、第3世代期（8月上旬）ではチアクロプリドとアセタミプリドの散布樹で被害（マイン数）が有意に少なかった（図1）。
- 3) 以上の結果から、ネオニコチノイド系殺虫剤のキンモンホソガに対する防除効果は薬剤間で異なり、チアクロプリドまたはアセタミプリドを散布すれば、本種の発生を長期間抑制できると考えられた。

[対象範囲]

全県のリンゴ園

[参考上の留意事項]

ネオニコチノイド系殺虫剤のキンモンホソガに対する防除効果は、リンゴ葉に食入した幼虫に対しては期待できないので、第1世代や第2世代の成虫発生期（産卵期）に散布する。

[具体的なデータ等]

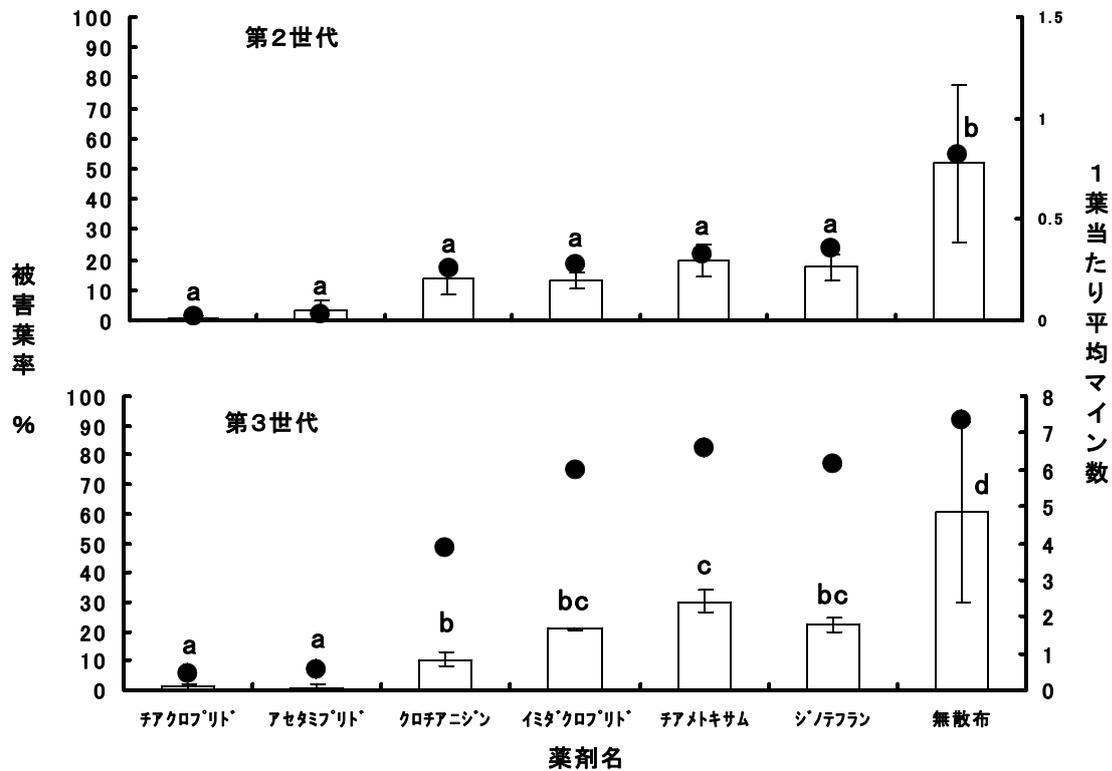


図1 ネオニコチノイド系殺虫剤を散布したリンゴ樹におけるキンモンホソガの発生状況(平成18年)
 薬剤は第1世代成虫発生盛期に散布し、第2世代と第3世代に新梢中位の250葉の被害を調査した。
 図の点は平均被害葉率を、棒は平均マイン数±SEを示す。同一のアルファベットは世代別に薬剤間で平均マイン数に有意差がないことを示す ($p > 0.05$, Tukey法)。

[発表文献等]

北日本病害虫研究会報第58号 (印刷中)